

提 案 概 要

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 総則部会

1 提案テーマ 『楽しい学校づくりをめざした教育課程の工夫改善』

2 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ① 学習指導要領の内容を踏まえた特色ある教育課程の編成の工夫・改善

3 学習指導要領との関連

第1章 総則 第1 教育課程編成の一般方針

1 (一部略) 学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

4 実践に向けての課題意識

本校では、ここ数年で急激に世代交代が行われ、若い職員が増え、授業力を高める必要に迫られた。また、平成25年度全国学力・学習状況調査の質問項目の結果から、生徒たちの学習意欲や自己肯定感がやや弱い様子が把握できた。そこで、「学校教育の根幹である充実した授業と体験活動を通じて、生徒に達成感を得させることが、生徒の自己肯定感を高め、楽しい学校づくりにつながる」と考え、県の学びづくり研究委託事業を受け、研究を進めることとした。この研究を推進する時間を生み出すために、過密なスケジュールを緩和する教育課程上の工夫が必要になった。

5 実践の概要

研究推進の時間を生み出すための手段として、定期テストの回数の削減と、通知表の簡素化を行った。

- ・2期制での定期テストを年間3回の実施にした。本来の「単元ごとの評価」の原則を徹底すべく、職員の意識改革を踏まえて、提案は学校長から行われ、昨年度から実施した。単元ごとの評価を適切に行うように評価をもう一度見直して、前期は期末テストのみとした。
- ・通知表の簡素化を図った。三者面談で、担任から伝えるべき詳細は話をしているので、通知表には、観点別評価と評定のみを記載した。各家庭に学校の様子を伝えるものとして、「もう一つの通知表」を作成した。4～7月、9～12月、1～3月のそれぞれの活動について、個人内評価、友人からの相互評価を記載した。

6 成果と課題

2つの手段を実施した成果として、次のようなことがあげられる。

- ・時間を生み出すことができ、今までなら物理的に実施が難しかったため、立案をあきらめたであろう体験活動や授業研究会を実施できた。若い教員の授業力向上に、確実に役立っている。
- ・生徒にとっても教師にとっても過密スケジュールの緩和になり、1つの行事に集中して取り組めた。
- ・評価の方法を見直し、工夫する機会になった。
- ・単元ごとの小テストは学習に取り組みやすく達成感が得られやすいので、自己肯定感を高めたのではと期待できる。
- ・「もう一つの通知表」は自己肯定感を育む一助になったと思われる。
- ・学習状況調査の意識調査結果に向上が見られたのは、若手教員の授業力向上によるところが大きい。

課題としては次のようなことがあげられる。

- ・適切な評価を行うための努力がさらに必要である。
- ・単元ごとのテストの行い方の工夫が必要である。
- ・テストがなくなると勉強なくなるといふ不安感を解消できていない。
- ・前期の評定が1回の定期テストで決定してしまうという誤解を解き切れていない。

7 予想される協議の柱

各学校で行っている、「楽しい学校」をつくるための教育課程に関わる部分の工夫について